

取組 1 ダイバーシティ研究環境整備強化

1 研究支援員の配置

広島大学に所属する研究者が、妊娠・育児・介護により研究時間の確保が困難になった際に、研究者の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置することで、研究とライフイベントの両立を推進することを目的として2017(平成29)年度から支援を行っている。この制度は同時に、研究支援員にとっても将来についての様々な学びや自身の研究に関わる貴重な経験を得ることができる機会となっている。本支援制度を継続して実施していくため、実施要項と採択に当たっての配点基準を整備した。

<対象者>

本学と雇用契約を結び、本学を主たる研究の場としている大学教員(教授、准教授、講師、助教、助手)及びフルタイム勤務の教育研究系契約職員(特任教員、寄附講座等教員、共同研究講座等教員、病院助教、外国人研究員、研究員、特別研究員、病院診療医に限る)のうち、次の①～③の申請理由のいずれかに該当し、かつ申請要件をすべて満たす者。

<申請理由及び要件>

■理由 ①～③のいずれか

- ①妊娠:妊娠中である
- ②育児:12歳に達する日以後最初の3月31日までの子を養育している
- ③介護:介護認定(要支援認定含む)を受けている父母その他家族を申請者自身が主として介護している

■要件 (a), (b)を満たすもの

- 女性 (a)産前産後休暇、育児休業、介護休業その他休業・休職中でない者
(b)配偶者が原則フルタイムで勤務している者、単身者又は配偶者のいない者
- 男性 (a)育児休業、介護休業その他休業・休職中でない者
(b)配偶者が、大学、大学共同利用機関又は独立行政法人等で研究者としてフルタイムで勤務している者

<支援実績>

2019(平成31)年4月～2020(令和2)年3月の実績 ※いずれも、前期・後期利用者の、のべ人数。

■利用者内訳

	計	教授	准教授	助教	その他(研究員)
男性	2	1	0	0	1
女性	25	1	10	10	4

■申請理由

	妊娠	育児	介護
男性	-	2	0
女性	1	23	1

<支援内容>

文献調査、資料作成、資料整理、文章校正、画面校正、サンプル作成、実験補助、計測、データ入力、データ分析補助、データ解析、統計処理、等

<利用者の声/研究推進における効果(抜粋)>

- 制度の利用により、多大な時間を有する作業を支援員と分担したことで時間に余裕を持つことができ、また、論文作成のための貴重なデータや資料を得ることができた。(医系教員)
- 講義担当が多い夏学期は実験実施が困難であったが、支援員の補助のおかげで、ある程度の成果を得ることができた。(理系教員)
- 申請者は学内講義・演習、学外実習等、教育活動の負担が非常に大きく、研究に着手できる期間が非常に限られていたが、支援員が配置されたおかげで、研究成果発表に至ることができた。(医系教員)
- 滞っていた作業の支援を受けて系統的に解析を行うことができ、研究が進んだ。得られた結果をまとめて投稿論文を作成中である。(理系教員)
- 育児で時間制限がきつく数値実験等を途中で止めざるを得なかったが、支援員に依頼することで研究データをとることが可能となり、予定よりも早く研究成果を学術雑誌に投稿することができた。(理系教員)
- 子育て中で研究時間が限られる中、支援員に実験補助やデータ分析をしてもらったことで、効率よく研究が進み、論文執筆や発表の準備を進めることができ、論文を掲載することができた。(医系教員)
- 育児により自分の業務時間が制限される中、研究支援員のおかげで効率よく研究を進めることができた。専門的知識が必要とされる部分に自分の時間を集中させることができた。(理系教員)
- 支援員の研究支援のおかげで、本学及び他大学の研究者との共同研究、また、企業との共同研究がより早く進んだ。(理系教員)

<研究支援員の声／従事した感想(抜粋)>

- 研究室の実験でどんなことをしているかなど身近に感じることができた。(理系学生(3年生)・女性)
- 文献検索したものが授業に出てくると関連付けて考えられ授業がより面白く感じられる。(医系学生(2年生)・女性)
- 研究室で仕事をする事で自身の学びが深められる。とりわけ、講義で学んだ内容が実際に研究室で研究されていることを実感できることは貴重な経験だと感じる。(医系学生(3年生)・男性)
- 学内での授業だけでは研究にあまり魅力を感じていなかったが、実験を通して研究の面白さを感じることができ研究にも興味が湧いてきた。(医系学生(3年生)・男性)
- 自分の研究テーマに対する理解が深まった。研究を進める上での理論的思考も身に着き、研究職を志望する気持ちが強まり、博士課程への進学が選択肢の中で大きくなっている。(文系学生(M2生)・女性)

2 休暇期間中の学童保育

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立支援を目的として、小学校の長期休業中(春季・夏季・冬季)に、東広島地区(東広島キャンパス)と広島地区(霞キャンパス)で学童保育(子どもクラブ)を開設している。業者委託により、指導員(委託業者)と学生サポーター(広島大学で教職課程を履修中の学生などを委託業者で雇用)で運営し、学内施設等での体験学習(春は登山、夏はザリガニ捕りや野菜収穫、冬はしめ縄づくりなど)や屋内・屋外運動支援などを行い、本学学生の実習の場にもなっている。

	東広島地区(東広島キャンパス)	広島地区(霞キャンパス)
春季 子ども クラブ	期間 2019(平成31)年3月26日~4月5日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童18名(新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)	期間 2019(平成31)年3月26日~4月8日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童40名(新小学校1年生から6年生・卒業生も含む)
夏季 子ども クラブ	期間 2019(令和元)年7月22日~8月29日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童30名(小学校1年生から6年生)	期間 2019(令和元)年7月22日~8月30日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童49名(小学校1年生から6年生)
冬季 子ども クラブ	期間 2019(令和元)年12月24日~ 2020(令和2)年1月6日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童13名(小学校1年生から6年生)	期間 2019(令和元)年12月24日~ 2020(令和2)年1月6日(平日8:00~19:00) 保育実績 本学教職員の学童36名(小学校1年生から6年生)

<参加者の声(抜粋)>

- 学習や遊びなど、様々な面でよく面倒を見てもらい、子どもとても喜んでた。(保護者)
- 普段はなかなかできないような体験学習(マドラー作成)にも参加させていただき、とても有意義な夏休みだったと思う。(保護者)
- 場所が近く安心でき、急がず迎えに行くことができる預かり時間で大変ありがたい。(保護者)
- 目新しい本があったので読書が楽しかった。(学童)
- 初めての参加で行く前は少し不安だったが、スタッフと一緒にいろんな遊びができて毎回楽しみだった。(学童)



<学内施設でガラス細工マドラー作り体験>



<学内農園で野菜の収穫>

3 病後児保育利用料補助事業

広島大学の職員の子(6歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある子。)が病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児保育施設を利用した際に支払った利用料の3分の2を越えない額(10円未満切り捨て)と1,000円のいずれか低い額を、利用料補助として、1人につき、年間16回まで支援している。

4

キャリア継続支援

博士課程後期合格者の入学料不徴収を実施

研究活動を中断中の修士の学位を有する女性で、本学の博士課程後期を受験して合格した者の入学料を不徴収とする経済的支援制度により6名の入学料不徴収を実施した。また、昨年度に引き続き2019(令和元)年度も募集を行い、以下の通り実施。(各研究科の募集要項HP等で周知,ダイバー事業HPやダイバーシティ推進協議会で周知)

- 2020(令和2)年2月12日(水) 入学料不徴収選考委員会開催(審査)
- 2020(令和2)年3月上旬 入学料不徴収者へ通知
- 2020(令和2)年4月 入学者の入学料不徴収実施予定
- 実績:実施人数1名

キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(広島大学)の採用及び公募

キャリアを中断している博士号を有する女性のキャリア再開支援,及び広島大学に在籍する研究者の配偶者の研究継続・再開・同居をサポートする「キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(CAP研究員)制度により、フルタイム1名、パートタイム2名を採用した。また、昨年に引き続き、公募を行った。

名称	CAP研究員(フルタイム)	CAP研究員(パートタイム)
公募対象者	キャリア中断中の博士号を有する女性	本学に在籍する研究者の配偶者(性別不問)
目的	研究継続を断念した女性研究者の研究活動の再開とキャリア形成を促進すること。(キャリア形成促進型)	配偶者の就職により自身のキャリアを断念した研究者のキャリア継続・再開を促進すること。(両立支援型)
経費	学長裁量経費	学長裁量経費
雇用期間	2020(令和2)年4月から1年間(更新なし)	2020(令和2)年4月から1年間(更新なし) ※週10時間以内
2019(令和元)年度採用部局	大学院医系科学研究科(1名)	大学院理学研究科(1名) 大学院工学研究科(1名)

5

意識啓発セミナー

- テーマ:「ギャップ」を測る —特許と論文データを用いたイノベーションプロセスにおけるジェンダーギャップ分析—
- 日時: 2019(令和元)年12月10日(火)16:30~17:30
- 場所: 東広島キャンパス 理学研究科小会議室
- 講師: 原 泰史 氏 (一橋大学大学院経済学研究科特任講師)
- 参加者: 16名
- 内容: 論文を投稿し、特許を出願する。そうした取組みは研究者の日常である。しかしながら、日本のノーベル科学三賞の受賞者はこれまで男性が占めてきた。また今日も、多くの大学・研究機関のファカルティメンバーは男性が大勢を占めている。本講演では、特許や論文などの、学術に係るビッグデータを解析することで、科学技術の分野でジェンダーギャップに関する研究が如何に行われてきたか、これまでの研究を紹介した上で、日本のデータを用いた試行的な解析結果について、講演いただいた。

<参加者の声(抜粋)>

- 途中で英語対応が必要な学生さんが来られたが、彼はデータサイエンスに興味があるため、本日の内容は日本語が理解できればとても面白い内容だったのでは、と思った。
- IRの仕事をしている同僚に、情報共有したいと思った。



6

中間総括シンポジウム

- テーマ: 地域に根差し, 国際的に活躍する女性研究者の育成
- 日時: 2019(令和元)年9月27日(金) 13:30~17:10
- 場所: 東広島芸術文化ホールくらら(小ホール)
- 参加者: 80名(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業の共同実施機関, メンバー機関, 全国のダイバーシティ事業に携わる機関, 本学教職員・学生, 一般の方)
- スケジュール: オープニング・講演

開会挨拶: 宮谷 真人(理事・副学長(教育担当))

来賓挨拶: 有蘭 文博(文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課
人材政策推進室室長補佐)

基調講演: 前田 香織(広島市立大学大学院情報科学研究科 教授)

「広島発のIT融合イノベーションを全国へ, そして世界へ発信」

事業報告: 相田 美砂子(広島大学 理事・副学長(大学改革担当))

本事業で支援を受けた女性研究者の研究活動紹介:

藪田 ひかる(広島大学大学院理学研究科 教授)

緒形 ひとみ(広島大学大学院総合科学研究科 准教授)

山根 友美(広島大学大学院国際協力研究科 研究員)

パネルディスカッション: 「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラムが目指すもの」

パネリスト: 仁科 陽江(広島大学大学院教育学研究科 教授)

萬 明子(マツダ株式会社人事室人事ソリューショングループ マネージャー)

渡辺 道雄(一般財団法人国際開発センター 業務部長)

吉田 奈央(マイクロンメモリジャパン D&I マネージャー)

西野 桂子(第三者評価委員会委員長・関西学院大学 教授)

コメンテーター: 前田 香織(広島市立大学大学院情報科学研究科 教授)

山村 康子(科学技術振興機構(JST)プログラムオフィサー)

コーディネーター: 石田 洋子(広島大学副理事(男女共同参画担当))



シンポジウムは「地域に根差し, 国際的に活躍する女性研究者の育成」をテーマに, 基調講演では広島市立大学教授の前田香織氏から「広島発のIT融合イノベーションを全国へ, そして世界へ発信」と題してご講演いただき, 本事業の実施責任者の相田美砂子理事・副学長から事業報告を行い, 本事業で支援を受けた3名の女性研究者から研究活動報告が行われた。

また, パネルディスカッションは「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラムが目指すもの」をテーマに, 関西学院大学教授で本事業の第三者評価委員会委員長の西野桂子氏から中間評価結果の報告, 次に, マツダ(株), 国際開発センター, マイクロンメモリジャパン及び広島大学から, 取組や成果, 事業への期待, 今後の展開などについて発表が行われた。その後, 会場の参加者を交えて活発な意見交換が行われ, 最後に, コメンテーターの科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏及び広島市立大学教授の前田香織氏から, 本事業の今後への期待や課題について総括コメントをいただき, 有益な情報交流の場となった。

<参加者の声(抜粋)>

- 救急現場のICT利用が本格化していることにおどろいた。IoTデザインガールプロジェクトin広島の今後が楽しみ。広島を大きく変革していただきたい。
- 産学官ダイバーシティ推進協議会の活動状況がわかった。ポジティブアクション, 復帰・復職支援の今後に期待し, 成果が楽しみ。
- 大変面白い夢のある研究だと思った。様々な分野での女性研究者の活躍を知れた。
- 各企業での取り組み内容や, 現時点での成果を聴く事ができ良かった。
- パネリストの方々ご自身が, それぞれ他者の発表に刺激を受けていらっしゃる様子が伺え, 非常に良いセッションだと思った。



〈前田広島市立大学教授による基調講演〉



〈相田広島大学理事・副学長による事業報告〉



〈連携機関およびコメンテーターを交えたパネルディスカッション〉